

人口減でも激増し続ける要介護認定者数

諏訪広域連合介護保険課の「介護保険10年のあゆみ」によれば、要介護認定の出現率は75～79歳で10.5%ですが、80～84歳では22.5%に激増します。80歳以上全体の認定者数は6,107人でその人口の3.6%になり、3人に一人は要介護認定者です。その内の認知症に限ると80歳以上全体では3,895人でその人口の2.3%になり、4人に一人は認知症の方です。(平成22年4月1日)

5月1日号(No.44)で諏訪圏域の人口は20年間で15%も激減する急減期に入ったことを示しましたが、高齢者だけは増え続け、とりわけ要介護認定者の出現率の高い80歳以上人口は激増し続けます。推計値では2030年の80歳以上人口は2010年より42%増加します。これを平成22年の要介護出現率で推計すると、2030年の要介護認定者は2010年より44%も増加し、これに伴って介護保険などの公費負担も激増し続けることとなります。総人口が減少し続け20～64歳の生産年齢人口が激減するなかで、長期的に安定した介護保険制度を確立するためには、財政負担の問題や介護職員確保などの課題を解決しなければなりません。

